





義経倭軍後 三巻

目録

口乃思おもいたまひまよましらぬ影かげほらえまかつらの前まへ  
 小屏こびりつよい若流わかも花代はなまてらち奉ほうへん公こう  
 若法わかあり輕と流りつて大長おほ刀やいば拵こしら袖そでの軍法いくさ者もの  
 梯はし除はずけとらうとい鬼き一いつ人ひと遣つか娘むすめが一言ことよ  
 角つののおれは若わか公こう

白  
 義経  
 三巻  
 目録  
 口乃思  
 小屏  
 若法  
 梯除  
 角の  
 若公

坊主落の勢を止むとて武蔵坊弁慶

両腕の星甲ひゆきくらは乾乃宝藏

戸前の損味あらぬ盗人取平の侍言を事物

狼藉者と押し置りしはあま主従乃契約

日限と松竹乃鴻産誓入は北白川志徳海

恥辱を虎の巻明くしらぬ法眼が鹿心

願ふ如く病氣やみあひ腰を打ついで平柄衝

乳母うまいそ葉の美をわけは妹背乃縁

ふれ思ひ馬小知ぬ勢つこ乃桂の前

先さる時を人と割しとる時を人は割せらるるといふはまて

強きもの位を越せざるを先よあめしよりせめてゆき強きものがあ

法眼の威とのんで返答せんと鬼の窟へ入るひさし津家の意

か一歌で今れは返事に入んぬ推察のしやちりとのけ入るま

くれは去園の侍かくと興へ出でくれはそ色色へとほほとて

牛馬丸と次乃一回へ入るり。何れもあつてあつては眼を痛乃

虫意は能く脱の腹をきく理申年れはさへとて大なる

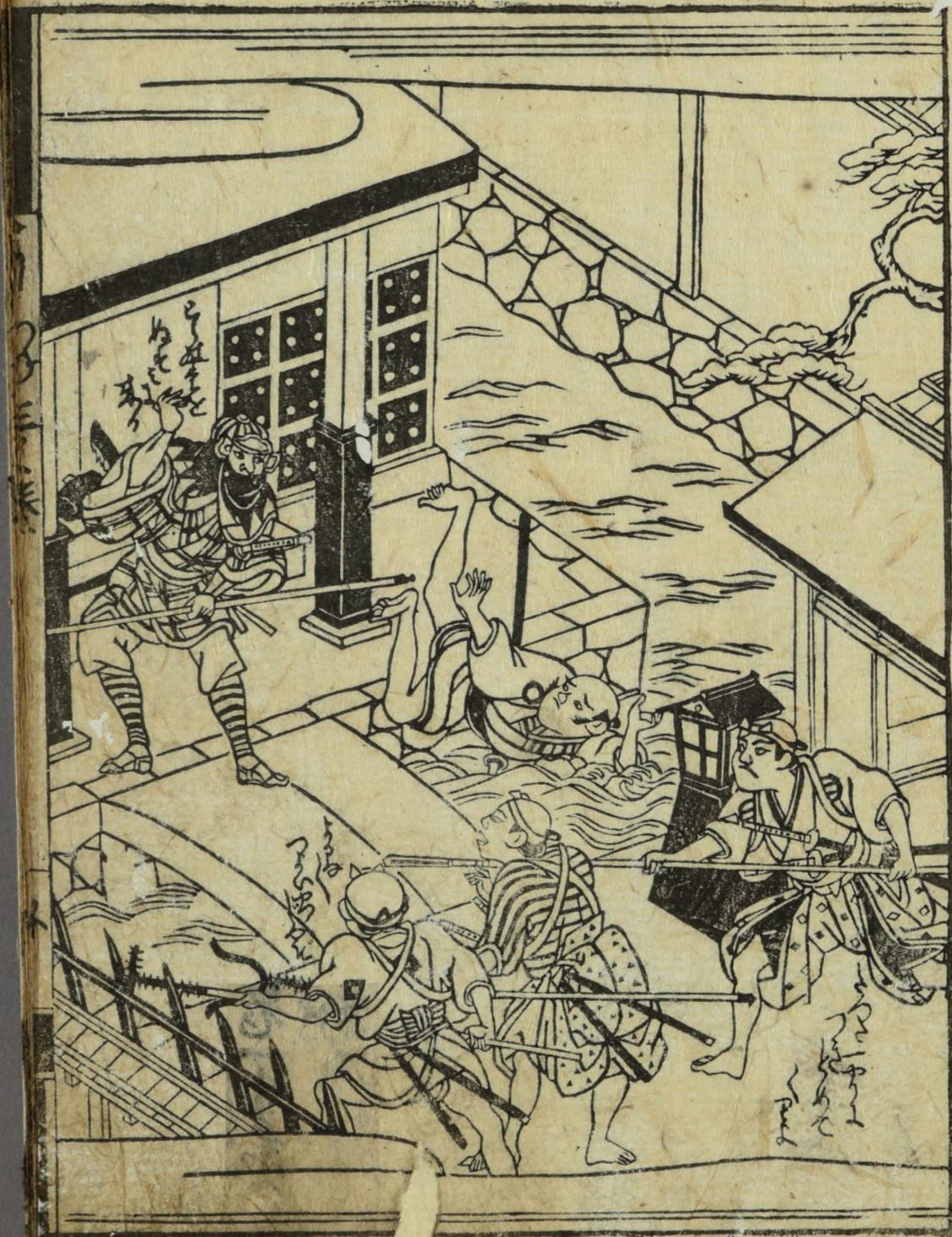
を杖まろと揚の板とあつらふ踏をりし一乃は膝ひききるとし

さし生れをあらんと吉沢が方よりあるとて母よかばは所が二命

あとかかぬほふむさうせし名花の結をぬきとせし後意ある









とて人れらせむの事先ほどちづくものさうてはるばく  
翁の卯へ礎をおくごとく何中人とちづけおせおつ雜長  
おとつがー留江あまりしとひるふり法眼大まといふて大  
れ癡然と鬼一の家もそまよあまのにおく此中人の飛を付  
らるるあしとといわれへ考法の陣れなままだとてあれ  
項羽がしつんぐ勇力ありたは法眼もよふけてみらん  
まあそとぞくごうとち力うのこも翁の因ふおどりあてりけ  
りをもくくしやと件のおと鬼うむかひととと蹴き  
ひるもあまらうまどと帯ういつんで翁の戸縁をうとあけ  
やうそよあまらう法陽所方のとまらんと人よ考法  
まうつるあがわつたれをるかほ負ひかくいふおの押入強盜

の勢いよあうとて海海とあわらう先かこのとく考法をん  
がけつものなるがまけけはあめは強良とと勝れ書おわら  
あそれと一回なんであふお礼をうは翁をんごしひは  
お推来せりまあおやま他らとあやあめいあまの慶  
れおまらうかといふあめのだと六お書をもま書し服をけし  
法ひてとあふえらうう人よ負ひさの下ふ汗ひてまら  
くあまおわられてる大幸れ考書とんれねと回お猶よ  
中判とまをせとひひりたれは只冷かうを境のそあまの  
あつりと徳叙物をはらうらうらととお徳あまをさくつら  
らうしてあまらう法で形かまよ侍らうの何と法眼君の起  
事あかふといひたれは法眼とまをかんて侍負の時の運

ふえり云々の肉を食ひて中におび入ぬるは  
れ形そとあかしくしては損ぞとまじく  
紙のうへに書かれし一巻の秘事を  
秘と今ひきき傳へては眼を命を  
と世の人を類とまのれは指を  
るまや鬼一が鬼のあまら  
一とおもつともや首とつと  
と血脈よりつくりしは首尾  
とつりつりなはむるの  
大事れ秘事とまのれは眼を  
而為虎のまゝ五礼は  
とつりつりなはむるの  
大事れ秘事とまのれは眼を  
而為虎のまゝ五礼は

引かきとていふはそれとあまら  
蓋と元まじれおのけ  
とげつりと懐中志との  
大勢の家を先鬼神とい  
お人よかまのふと  
れるあつと秘事とあま  
紙の内は秘事をしては  
おあつとまのふとあ  
と書きしんは念の  
秘事とあつとまのふ  
と書きしんは念の

けりもや 扱扱とて 下人あき入めしんよそしてをりぬ  
おぼえられさぬとては男が 臆首とせりぬとては  
夢をゆてとせむとては かくもさうさう事とせむと  
そとくくもし 命をけりあつらふらふもさうさう  
朱の丸とて 入らんとせんともさうさうとて  
まりの 借男のあまのつらふ人 若もさうさうとて  
のつかりとて 懐入とて 入らんとせんともさうさう  
さうさうとて 懐入とて 懐入とて 懐入とて  
ふありぬ 秘まるといひ 何とせんともさうさうとて  
頼とんと申す 申すともさうさうとて 頼とんと  
かりとて 頼とんと 申すともさうさうとて 頼とんと

夢のしとあやうに 白杖せよさうさうの 坊主首といひ  
本よからうと まつとくといふぬと ちかきぬとて びと  
は 坊主 けりぬとて 年忽とせんか 人よたのまんとて  
そのまると 案の案の 案の案の 案の案の 案の案の  
毎まると 案の案の 案の案の 案の案の 案の案の  
藝とあやうに 案の案の 案の案の 案の案の 案の案の  
そのまると 案の案の 案の案の 案の案の 案の案の  
かくとさうとて 案の案の 案の案の 案の案の 案の案の  
そとく 案の案の 案の案の 案の案の 案の案の  
ては 案の案の 案の案の 案の案の 案の案の





